

スポーツ施設の老朽化や財政難、人口減少等の中でスポーツ参画人口の拡大を支えるには、公的ストックの適正化により持続可能な地域スポーツ環境を確保することが必要。

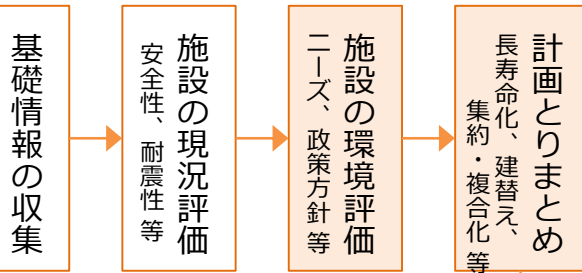
このため、個別施設計画※の策定を通じたスポーツ施設の集約・複合化や、広域連携・官民連携によるスポーツ施設の効率的な整備・管理運営、既存ストックである学校体育施設の有効活用を推進する。

※「インフラ長寿命化基本計画」に基づいて策定される個別施設毎の長寿命化計画

① スポーツ施設の個別施設計画策定を通じた集約・複合化等推進事業

スポーツ施設の集約・複合化等を推進するため、老朽化したスポーツ施設の集約化の検討や、施設の長寿命化等による効率化効果の算定等を行う地方公共団体を支援する。

スポーツ施設の個別施設計画策定の流れ

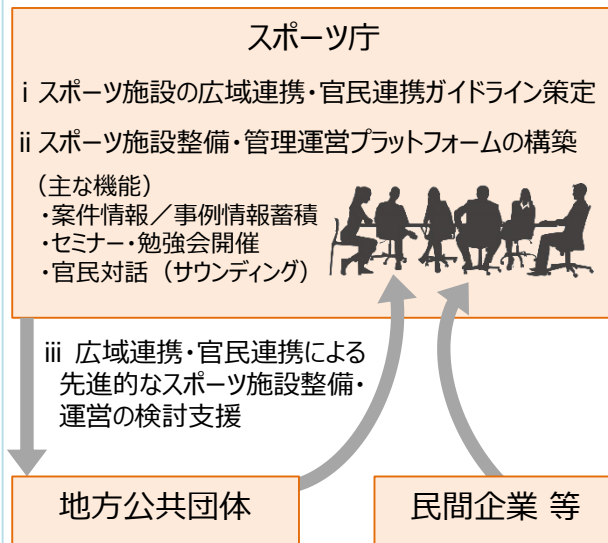


例. 水泳プールの場合

老朽化し利用期間も限られる屋外プールを、通年で利用できる屋内プールに集約。長期的な効果を算定・検証。

② 大規模スポーツ施設に関する広域連携・官民連携推進事業

スポーツ施設の効率的・効果的な整備・管理運営を推進するため、広域連携・官民連携のためのガイドライン策定、プラットフォームの構築を行うとともに、地方公共団体による先進的な検討を支援する。

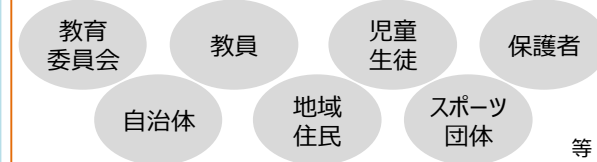


③ 学校体育施設の有効活用に関する手引き検討調査

我が国のスポーツ施設の6割を占める学校体育施設について、一般開放や社会体育施設への転用等により、その有効活用を推進するため、地方公共団体向けの実務的な手引きを策定する。

学校体育施設活用事例のケーススタディ

ワークショップの開催



有識者委員会等における検討に反映

学校体育施設の有効活用に関する手引き

- ・安全管理上の留意点
- ・多様な担い手の可能性
- ・持続可能な仕組みとするための利用料金の考え方 等

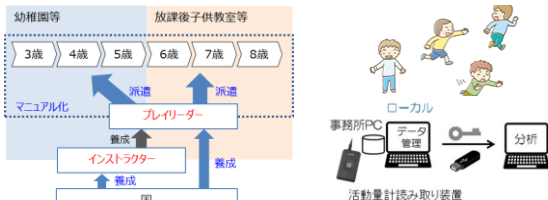
目的

幼児・児童に対して、運動遊びプログラム等を通じて楽しみながら多様な動きを身に付けることができる機会を提供することで、**日常的に運動・スポーツを実施する習慣**を支援する。
また、幼児の保護者に、この年代に**多様な運動をすることの重要性**を啓発する。

具体的な事業内容

【拡充】子供の運動習慣アップ支援事業(幼児)

【2017年度】ガイドブック作成
プレイリーダー育成
【2018年度】
子どもの活動量測定



【2019年度目的】

幼児期運動指針にも示す通り、家庭や地域での活動も含めた一日の生活全体の身体活動を合わせて、幼児が様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが望ましいことを踏まえ、保護者のプレイリーダー化のモデル事業を実施する。

- 1) 保護者を対象とした養成講習会でのプレイリーダー化
- 2) 小スペース、少人数でできる運動遊びテキスト提供
- 3) プレイリーダーとなった保護者への活動機会の提供
- 4) 子供の活動量調査

【新規】子供の運動習慣アップ支援事業(小学生)

【背景】
スポーツ好きな子供の割合は、小学5年生と比較し中学2年生が低く、特に中学生の女子は2割以上が「嫌い」・「やや嫌い」であり、運動習慣の二極化がみられる。

【2019年度目的】

現在の新体力テストに、バランスやリズムといった評価する項目も増やし、子供たちのスポーツ実施に向けた意欲を向上させる。

ICTを活用

- 1) バランス、リズム等評価の機能を付加することで、子供のスポーツ実施意欲向上に結びつける実証
- 2) 骨密度の測定を調査に付加し、骨が活発に成長する子ども時代から骨に良い生活習慣の普及啓発を図るための調査研究を実施



【新規】公共空間を活用した身近なスポーツの場づくり推進実証調査

【背景】
運動習慣には身近な場所でスポーツに親しめる環境が不可欠であるが、公園でのボール遊び禁止等、子供のスポーツの場は不足。

子供にとって身近な公共空間をスポーツの場としていくには、安全確保策等のノウハウの蓄積・共有、管理者や住民の理解の促進等が必要。

【2019年度目的】

公園、広場等の公共空間を活用したボール遊び場づくり等の実証実験を行い、効果を検証するとともに、実証成果報告会の開催や事例集の作成等により取り組みの普及を図る。

- 1) ボール遊び場等の実証実験の支援、効果検証
- 2) 実証成果報告会や事例集等による普及

